

令和5年12月17日  
第5回 飛騨高山学会

# 中部山岳国立公園における スメルハンティングを用いたエコツアーの提案 ～デジタルデトックスでリラックス～

文教大学国際学部 3年

木原 夢乃 (国際理解学科)

木部 堅翔 (国際理解学科)

近藤 大空 (国際理解学科)

市之瀬 尚樹 (国際観光学科)

岡崎 彩夏 (国際観光学科)

永野 翔太郎 (国際観光学科)

# 目次

1. はじめに
2. 調査
  - ①現地調査
  - ②調査手法
3. 調査結果
  - ①観光客の特徴
  - ②調査場所の匂いの特徴
  - ③調査を終えて
4. 提案
  - ①提案内容
  - ②期待される効果
5. 課題
6. 参考文献

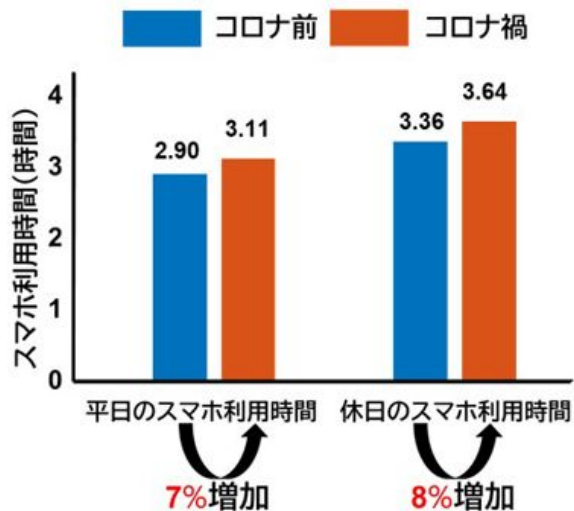


# 1. はじめに



## 2つの背景

### ①新型コロナウイルスによる影響



<図1:スマホ利用時間の変化>

出典:株式会社国際電気通信基礎研究所 (ATR)(2021)

#### ・スマホの利用時間の増加

→ デジタル機器を使用している時間を減らしたい

→ **デジタルデトックス**を実施したい

# デジタルデトックスについて

◎デジタルデトックスとは

デジタル機器から**離れる時間**のこと※1

※1「若者のデジタル機器への依存性の把握とデジタルデトックスの可能性の検討」(久保、山本 他2019)

**➤➤➤ デジタル機器から受けるストレスを軽減することができる**

## ②嗅覚の利用

- ・ゼミナールで嗅覚を使ったスメルハンティングという調査を行ったことがある
- ・嗅覚は他の五感より感情や本能、記憶に働きかける力が強いと言われている(橋本,2021)

**▶▶▶ 中部山岳国立公園でスメルハンティングを用いたエコツアーを提案したい**





## 2. 調査



# ①現地調査－上高地に着目

## ・事前調査

高山市及び上高地周辺地域を①歴史②自然③観光④産業の四項目に分けて基礎調査を行った。

## ・分かったこと

**河童橋周辺のみ**を観光する人が多い。

→川の変化や緑などもっと他の魅力を体験してほしい。

## ・現地調査

2023年9月30日・10月1日

## ・考察

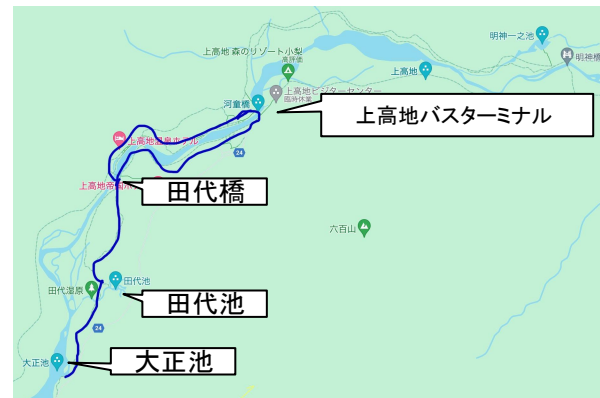
スメルハンティングによって上高地の自然の魅力を全身で感じることができ、河童橋はもちろん選定したコースを歩くことでより身近に自然に集中することができるのではないか。





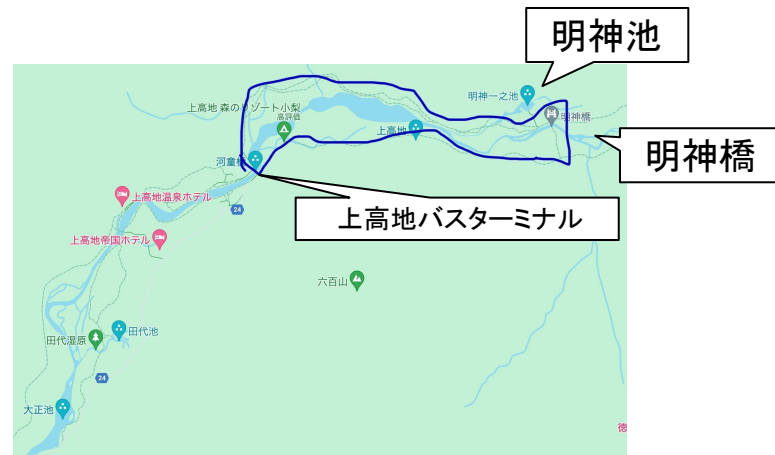
## ・9月30日(土)晴れ

「さわんどバスターミナル」からバスに乗車。「大正池」で下車。そこから歩いて「上高地バスターミナル」までのルート进行调查。



## ・10月1日(日)雨

「さわんどバスターミナル」からバスに乗車し「上高地バスターミナル」で下車。そこから歩いて明神橋を渡り明神池を見て、別ルートで「上高地バスターミナル」までの道のりを調査。



出典: Google Earth に加筆

## ②調査手法

### スメルハンティングの方法

①接香、②近香、③中香、④遠香の4つの距離に分けて匂いを嗅ぎ、ワークシートに記録していく。

#### ①接香について

鼻を近づけて嗅ぐと分かる匂い。

※国立・国定公園は指定植物の損傷の危険が懸念されるため今回は活用しない。

#### ③中香について

少し離れたところで立ちのぼり、漂ってきて嗅ぐことができる匂い。

#### ②近香について

近くを通りかかるとふわっと香ってくる匂い。

#### ④遠香について

海の潮の香りや台風時の風など気配のような匂い。

## 中部山岳国立公園スメルハンティング

### ツアー趣旨

におい(嗅覚)は、五感の中でもとくに、人の感情に訴えかけ、記憶に残りやすい特徴をもつ大切な感覚です。しかしながら、写真のように記録ができない上に、すぐに消えてしまうところのないものとして、これまでににおいに注目して観光地づくりを考える例はほとんどありませんでした。それどころかスマホやSNSの発展とともに、ますます見ること(視覚)が重視され、新型コロナウイルスによるマスクとバーチャルの普及が拍車をかけています。でもにおいは、かいだ時に個人のその場所とのつながりや、過去の出来事などを想起させ、なつかしさや心地よさなどのパーソナルな思いを呼び起こす性質を通して、ある土地に回帰させるものと言うこともできます。においは、その源との距離によって次のように分けることができます。この概念は景観(ランドスケープ)で使うものですが、それを応用してスメルスクープと呼ぶことにします。

近香:近くを通りかかると、ふわっと香ってくるにおい

中香:少し離れたところで立ちのぼり、漂ってきて嗅ぐことができるにおい

遠香:海の湖の香りや台風時の風など、気配のようなにおい

距離	どんな匂いがしたか
近香	
中香	
遠香	

<モデルコース>

大正池→田代池→田代橋→河童橋→明神池



【調査で使ったワークシート】

【調査風景】



# 3. 調查結果



# ①観光客の特徴

## 河童橋周辺

ファミリー層・外国人観光客・団体客・若者

**特徴:**比較的軽装の観光客が多く、河童橋からの景色を見たり周辺施設を回ることを目的としている。非常に混雑していた。

## ウォーキングコース周辺

高齢者・若者・外国人観光客・ファミリー層

**特徴:**ハイキングを目的とした団体や歩くことを目的としている方が多い。比較的年齢層が高めであった。また本調査で選定したウォーキングコースは、河童橋周辺ほど観光客は見受けられなかった。



## ②調査場所の匂いの特徴

### 1, 大正池

川の匂い中心。川辺に少ないながら草木が生えていて、時折かすかな草木の匂いと混ざった川の匂いを感じられる。



### 2, 田代池・田代湿原

道中に水溜りが多くある。道が舗装されていない土道なので雨で緩くなっていた。しっとりとした土の匂い。湿地帯の匂い。



### 3, 田代橋・穂高橋

梓川の匂いと生い茂る木々の緑の葉の匂い、木の幹が水分を含み湿っぽい匂いがした。



### 4, 河童橋

橋を渡ると下からの川の匂いと目線にある緑の匂い、澄んだ空気の匂いが混ざる。飲食店から食べ物のいいにおいも漂ってくる。



## 5, 明神・明神橋

ここでは川の匂いとコケや草木の匂いがした。川の流れが早いので交互に匂いが入れ替わっていた。



## 6, 明神池・穂高神社

コケの匂いがした。草木の匂いが充満していた。池のため水の流れが少なく、同じ匂いが持続的に感じ取れた。



### ③現地調査「スメルハンティング」を終えて

- ・デジタルデトックスができ、普段活用しない五感も刺激できる。
- ・スメルハンティングを実施することで、自然の中で細かな匂いの変化に疑問を持つことができる。
- ・場所、環境、天候、気温により匂い  
が変化していることが分かる。

- ・河童橋に観光客が密集していた。  
ウォーキングコースでスメルハンティングをすることで河童橋以外の魅力を掘り起こせる。
- ・このツアーは教育旅行でも活用が可能である。



# 4. 提案

## ①提案内容

・これらの調査から

→スメルハンティング調査による探究を活用した**エコツアー**を提案する。

・スメルハンティングを用いたガイド付きのツアー

対象(人): 家族連れ

持ち物: スメルハンティングワークシート、筆記用具、双眼鏡、手持ちサイズのルーペ

服装: 動きやすい服装



## 条件

- ① デジタルデトックスを実施している為、電子機器の**利用禁止**
- ② スメルハンティングワークシートの記入。

## 実施メリット

幼い頃から自然と深く関わる事で、大人になった際に自然との関わりの変化や**自然価値の重要性**を再認識することができる。

## ②期待される効果

### ◎参加者にとっての効果

#### ①デジタルデトックス

→高いリラックス効果

→家族の対話が増える

#### ②記憶に残る

→匂いをもとに景色を記憶に残す

→「プルースト効果」によって再来訪時に楽しさが増す

### ◎地域にとっての効果

・「子どもの頃の思い出の匂いをまた嗅ぎたい」

→大人になってから再来訪

・匂いは季節や天気、時間や場所によって異なる

→条件が違うときに再来訪

# プルースト効果とは

## ・定義

特定の香りが、ある一定の事象や記憶と結びつく現象であり、香りと共に記憶に深く刻み込まれる現象。

フランス人作家

マルセル・プルースト著書

『失われた時を求めて』の作中から

名付けられた名前

## ・仕組み

五感の中で嗅覚だけが脳辺縁系を直接刺激する。

「海馬」と言われる記憶を司る部位が存在し、特定の匂いを嗅ぐことで海馬部分が活性化する。

(大場、2020)

## 5. 課題

### ① ワークシートについて

ビジターセンター等にワークシート設置の  
協力が得られるか確認が必要

### ② ツアーガイドについて

ガイドを付けることを想定しているが、  
引き受けてくれる人の確保が必要

## 6. 参考文献

1. 大場健太郎(2020)「懐かしい香りを用いた回想法の効果検証および脳メカニズム解明」コスメトロジー研究報告Vol.28p208 東北大学加齢医学研究所
2. 久保 暁子, 山本 清龍, 中村 和彦, 下村 彰男(2019)「若者のデジタル機器への依存性の把握とデジタルデトックスの可能性の検討検討」11/27日開催 環境情報科学研究発表大会
3. 小山旺耶・後藤恭平・久保正子(2023)「大学生のゲーム障害予防のためのデジタルデトックスの有効性に関する文献検討」共立女子大学看護学雑誌 10 83-89
4. 橋本俊哉(2021)「観光における「嗅覚体験」に関する基礎的研究」立教大学観光学部紀要 第23号
5. 星野 祐司, 林 明日香 (2016)「匂い手がかりが自伝的記憶の特定性におよぼす影響」立命館文学646、600-591
6. 宮崎雅雄(2016)「哺乳動物の嗅覚コミュニケーション」におい・かおり環境学会誌47巻、1号25-33
7. 山中俊夫・甲谷寿史・松尾 真臣(2008)「生活環境のスメルスケープに関する研究—アンケート調査に基づくにおいの評価性とおいマップ—」日本建築学会環境系論文章73(623),47-52
8. 株式会社国際電気通信基礎研究所 (ATR)(2021) 「コロナ禍にでスマートフォン利用時間が増加し、ゲーム依存、ネット依存の割合が 1.5倍以上増化」<https://www.kddi-research.jp/newsrelease/2021/101202.html>